

加賀電子株式会社
2021年3月期（第53期） 第2四半期決算説明会
主な質問と回答

日 時： 2020年11月26日（木）16:00 ～ 16:30
（オンライン説明会）

<ご留意事項>

「主な質問と回答」は、決算説明会にご出席されなかった方々の便宜のため、参考として掲載しています。説明会でお話したこと全てをそのまま書き起こしたのではなく、当社の判断でポイントのみ簡潔にまとめたものであることをご了承ください。

また、本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の実績等は様々な要因により大きく異なる可能性があることをご了承ください。

EMS ビジネスについて

Q：EMS ビジネスに関し、拠点数を教えてほしい。

A：11月に買収した旭東電気が加わり、現時点では「10カ国、22拠点」となっております。

Q：EMSの売上総利益率（昨年上期3%台、今上期5%台）が改善した理由はなにか。

A：米国向けの医療機器が順調に推移しており、この利益率が非常に高いことがEMS全体の利益率向上につながっております。また、2020年3月期はモデル変更があり生産台数が減少しましたが、今期は通常に戻ったことも利益率向上に貢献しました。

M&Aをした会社の状況について

Q：M&A後の改革が着実に進んでいるようだが、会社別に進捗状況はどうか。

A：最近グループ化した会社では加賀EMS十和田、旭東電気、エクセルの3社は順調に改革が進んでおり早い段階で効果が出てくると感じております。富士通エレクトロニクスは、他の3社に比べて規模が大きい分もう少し時間がかかると考えております。

Q：富士通エレクトロニクスは、通期で営業赤字想定だがその原因は何か。

A：コロナ影響で4月、5月以降の上半期は、主要顧客である大手カメラメーカーの生産が前年比約2～3割まで落ちました。その他、車載関連での減産影響もあり、2021年3月期通期では営業損失を見込んでおります。それがなければ、ブレークイーブンくらいまでは行けたのではないかと思います。

Q：富士通エレクトロニクスの黒字化に向けた施策はあるのか。

A：新規ベンダーの取扱いが増えてきており、売上高も100億円単位で増加しています。2022年3月期以降はこのような新規ベンダーのビジネスで減少分をカバーしていきたいと考えております。

Q：海外の会社を買収する可能性はあるか。

A：良いお話があれば買収していきたいと考えます。

2021年3月期第2四半期決算、通期業績予想について

Q：半導体やEMS 商社では、海外で売上高や利益を増やしていく傾向にあるかと思う。その点、御社の海外比率は他社に比べ低いのではないか。

A：海外売上高はEMSビジネス中心に伸びてきております。電子部品ビジネスは、加賀電子単体の海外比率は低いものの、富士通エレクトロニクスでの海外比率が高いので、全体的に他社に比べて低いとは考えておりません。

Q：通期業績予想に、特別損失、構造改善、リスクとあるが具体的に何を見込んでいるのか。

A：ベトナムやメキシコなど、ここ2～3年以内に立ち上げた海外子会社における業績がコロナ影響により黒字化が若干遅れているため、減損リスクを見込んでいます。

以上